

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 8 年 3 月 23 日

事業所名 ASKAclub大平

保護者等数(児童数)

回収数 6人

割合 85 %

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	5	1			体を動かす場所としては狭いと感じる。	施設として規定のスペースはあります。また、活動によってグループ分けや活動場所を分けるなど、工夫して取り組んでいます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	6					
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	5	1			送迎時に見ただけでは分かりにくい。	手すりやスロープなどはありませんが、トイレは広めのスペースであったりパーテーションを用意して部屋を区切ったりできるようにしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6					
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	6					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6					
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	6					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3			3		
保護者へ	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	5	1				
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	5	1			時々あったかなと感じる。	ご家族送迎の方は特に、日によって来られるご家族が違うことがあり、説明が分かりづらいことがあったかもしれないので、伝わりやすい説明を心がけます。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング*4等)が行われているか	4	1	1			
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	6					
14 定期的に保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	5	1					

の 説 明 等	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	1	2	2		
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか		5				
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか		5				
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか		5				
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	4	1			SNSをNGとしていたが、顔にスタンプが押されて載っていたことがある。	写真の取り扱いについて、再確認を図りました。また、今まで使用していた承諾確認書は許可の有無が分かりづらかったため、分かりやすい文言に変更しました。
非 常 時 等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを作成し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	1	1		3	あんまり聞いたことない。	各マニュアルは適切に作成し、保管しています。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	1	1		3	行われているか分からない。	年に2回避難訓練を実施しています。また、震災・火災が発生したときの対応の方法や水周りでの配慮事項なども、定期的に確認をしています。訓練日に利用がない子どもは、後日確認をするなどしています。
満 足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	5					毎週の通所をととても楽しみにしている。
	23	事業所の支援に満足しているか	5					少人数で専門的な部分も含めて、しっかり運動をさせてもらえてありがたい。

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

公表

事業所における自己評価総括表 児童発達支援

○事業所名	ASKAclub大平		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 10 日		～ 令和 8 年 2 月 20 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 10 日		～ 令和 8 年 2 月 20 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 16 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動をしっかりと行うことで、体幹の強化やストレスの発散、集団行動の向上に繋がっている。	基礎運動や体を大きく動かす運動を反復して行うことで、体の使い方の習得や指先のコントロール向上に繋がっている。また、幼児の段階に合わせて、楽しく活動することで、体を動かす楽しさやできた達成感を知り、心身の健康に繋がっている。	成長速度にバラツキがある時期なので、できた・できないに拘らず、個々のやりやすさ、頑張れる範囲を見極めてアプローチをする。跳び箱や鉄棒の練習では技能の練習のみならず、跳び箱は登って降りる山登りにするなど、道具を工夫した使い方で楽しむことで、様々な発想に繋げる。
2	児童・スタッフともに良好な雰囲気やメリハリがあり、どの活動も積極性や前向きな姿勢で取り組める。	児童同士もスタッフも皆で遊ぶときは遊ぶ・やる時にはやる、切り替えの場面を分かりやすくして活動することで、心のスイッチがある。発表会などのイベントには参加率が高く『チーム大平頑張るぞ!』となる。切磋琢磨して日々を過ごしているため、ライバルでもありつつとても仲が良い。	今後もペア活動やグループ活動を取り入れ、縦と横の関りを大切に、上級生は下級生の見本・世話を、下級生は上級生を見習う姿勢を持てるようにする。新規の子が入会や喧嘩があっても、しっかりとサポートしていくことで人間関係を学び、良好な関係・好循環な雰囲気を継続していけるようにする。
3	発達の専門に深い外部講師と連携し、個別学習の時間を設けている。	専門スタッフと連携し個別学習の時間を設けることで、より細かなサポート(目の動き、線の見え方、物事の捉え方の理解など)ができています。また、個別学習の側面から見える幼児の特性や理解力を共有し、運動面でのアプローチにも活かしている。	利用している児発の子、全員が個別学習を利用しているわけではないため、個別学習で分かる事や幼児の動きから分かる傾向について各スタッフが理解を深めていく。また、運動時の対応についてアドバイスを聞く等し、色々な場面・幼児のサポートに活かせるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用日数が少ない子と多い子の技能の差がある。	利用日数は各ご家庭の状況や児童の状態に合わせて調整しています。しかし、事業所の特性もあり週1日の子と週3日来ている子では、段々に技能面や取り組みの差が見えてくる。児童の成長には個人差があることは前提にしつつ、利用日数が少ない児童も成長して行けるようにサポートをしていきたい。	利用開始時に事業所の特性や反復・継続の大切さを伝え、理解をいただいたうえで利用日数を適切に検討していく。また、週1日利用の児童は特に、活動の様子やご家庭の状態を考慮し、状況に応じて利用日数を増やすことを検討・相談していく。
2	児童発達支援利用者への災害マニュアルや、避難訓練実施についての周知強化。	HUGの定期会報などを利用して、災害マニュアルについてや避難訓練の実施について報告をしていたが、児発の利用者は利用日数が少なく訓練実施日に利用が重ならないことや、幼児には説明が難しいため、保護者の方の意見で「わからない」ということが多かった。	保護者の方に定期会報を読んでもらえるように声掛けをしたり、送迎時に避難訓練実施についてや万が一の避難場所を伝えたりし共通理解を図る。また、定期会報のみならず、SNSにも実施したことを公表するなどし、周知を広げていく。
3			

公表	事業所における児童発達支援自己評価結果
----	---------------------

事業所名		ASKAclub大平				公表日	令和8年3月23日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			器具の収納スペースがもう少しほしい。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		適切な人数を配置できている。子供の人数や内容に合わせてスタッフを割り振って活動している。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎朝清掃・消毒をすることで、現在の環境が保たれていると思う。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		パーティションを利用して空間を区切っている。	個別対応をする際の場所を工夫したい。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7						
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		スタッフ同士で共有ができている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7						
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7						
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7						
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7						
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7						

援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支 援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を 行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた 支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改 善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必 要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会 議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保 育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている か。	7		市が開催している関係機関交流会や施設見 学に参加し、情報交換を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推 進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認 定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援 内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間 で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と 連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っている か。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を 受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ 積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じて スーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の こどもと活動する機会があるか。	6	1	園や地域外になるがアスカのイベントをご案内 し、交流の機会を提供している。今年度は2月 末に地域の親子マラソンをお知らせし、ご参加 いただいた例がある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状 況や課題について共通理解を持っているか。	7			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プ ログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる 研修の機会や情報提供等を行っているか。	7				

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	発表会などのイベントで子供達の活動を通して、保護者が交流する場面がある。	事業所の特性として一般的な保護者会の開催時刻（放課後）で行うことが難しい傾向にあるので、どのように取り入れていくか検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			写真掲載に関する承諾書の項目が分かりづらかったため、明確になるよう項目を改めた。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		児童の手に届かない、目に入らない場所で保管できている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	地域の活動に参加する場面はある。	地域の方を招待して行うイベントは、個人情報の観点もあるため慎重に検討したい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			対応が必要な時にマニュアルがしっかりと機能するよう、研修や事例を通して確認を継続していく。利用日数が少ない児童の子は避難訓練日に利用が無いことが多いため、後日確認をするようにしたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7				